

厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）

（分担）研究報告書

地域共生社会における薬剤師の対物・対人業務の充実に関する調査研究

薬剤師の対物・対人業務の充実を図る研究

研究分担者 武田香陽子 北海道科学大学薬学部教授

研究要旨

地域共生社会における薬剤師の対物・対人業務の充実を図るため、対物業務の効率化を実現するため、どの業務を効率化すべきと考えているのか、効率化した先に何をすべきと考えているのかについて薬剤師に直接調査を実施した。

A. 研究目的

地域共生社会における薬剤師の対物・対人業務の充実を図るために、対物業務を効率化するための業務手順書を薬剤師として働いた経験に基づいて研究協力者と共に作成した。一方、薬剤師自身が自ら薬剤師業務に日々携わる中で対物業務の負担など実感していると考えられ、それらを把握した上で職能に求められる業務効率化を考える必要があるが、上記内容の報告は少ない。本研究は薬剤師が感じている対物業務の効率化は何かを明らかにし、それらを踏まえた上でさらなる薬剤師業務の充実を検討することである。

B. 研究方法

1.

対象者と調査期間

本研究の対象者は本研究の趣旨を理解し、本研究への参加に同意し、無償ボランティアとして回答して頂いた薬剤師である。調査期間は、2023年2月3日～9日とし、Web調査を実施した。

2. 質問項目

回答者の属性に関する質問、薬剤師の認識などの質問を計21問設定した。（倫理面への配慮）薬剤師を対象としたWebによる調査では北海道科学大学で倫理審査を申請し第23-09号として許可を受けた内容について研究の趣旨を理解いただき、アンケートに回答することに同意いただいた方がWeb画面が進み回答に進むように設定し、個人情報は一切含まない内容で調査を実施した。

C. 研究結果

本アンケート調査の結果、499人（90.9%）の薬剤師は対物業務を効率化し、対人業務へ移行する必要性を認識していることが分かった。また、効率化できる業務は何か？に対する回答は多い順に、医薬品在庫管理367人（66.8%）、医薬品発注351人（63.9%）、一包化254人（46.3%）、計数調剤233人（42.4%）が挙げられた。また、対物業務を効率化後に何をしたいか？という質問に対して、多い順に、患者への服薬指導やフォローアップの充実224人（40.8%）、新薬や疾病に関する勉強213人（38.8%）、プライベート・仕事以外の趣味の充実161人（29.3%）、ポリファーマシー対策87人（15.8%）との回答から、対物業務を効率化して対人業務へ移行する国等が進める様々な施策は薬剤師の意思を反映していると考えられた。

D. 考察

近年、薬剤師業務の「対物業務から対人業務への変換」についての議論がなされ、DX、一包化の一部外部委託、調製作業の機械化など、薬剤師業務は対人業務重視の方向に向かいつつある。本調査では全国の一部の薬剤師を対象とした研究ではあるが、薬剤師業務のうち、対物業務を効率化して対人業務を充実させる必要があることを9割の薬剤師が感じていることが明らかとなり、また、その中でも現在業務負担の多い医薬品発注に関連する業務、その次に一包化の業務効率化を求める声が多く見られた。また、対物業務を効率化した先に薬剤師が力を入れたい業務については、患者フォローアップが挙げられるなど、新薬や疾病に関する勉強など対物業務を効率化し、対人業務の充実をはかる方向性が認められ、現場の薬剤師の考えに沿った対物業務の効率化と対人業務への充実に向けたガイドライン作成の取り組みであった一定の裏付けがなされた。

E. 結論

時代と共に薬剤師に求められるニーズは変化する。特に、薬局における調製設備・機器類の性能が上がり、正確に作業を行える調製設備・機器類も開発される時代はそう遠くはない。しかしながら、調製された薬剤における患者への責任が薬剤師にあることは、どれだけ調製設備・機器類が進歩しようとも揺るぎがなく、薬剤師として外せない対物業務があることも事実であり、薬剤師業務をどのよ

うに効率化し、社会のニーズに応じていくか常に議論が求められるだろう。それでも、調製設備・機器類で対応できない対人業務の充実は今以上に求められ、薬剤師として、地域医療への役割を果たしていくための自己研鑽と覚悟がこれからの薬剤師に求められているのではないだろうか。

G. 研究発表

1. 論文発表

現在、投稿中

2. 学会発表等：

武田香陽子：対物業務の効率化とその先の対人業務のニーズ調査令和4～5年度 厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業 薬剤師・薬局業務における対人業務の充実及び対物業務の効率化に資する研究（22KC0301）
公開シンポジウム（令和6年3月3日、WEB開催）
で一部公開

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし

2. 実用新案登録：なし

3. その他：なし